「安心安全」おきざりでも
『いざきロード』突き進む

市民から『いざきロード』と揶揄されている流山おおたかの森センター地区道路再整備事業。市民と日本共産党の追求が、市長の暴走を止める大きな力になっています。

「安全な環境を壊してまでやる事業じゃない」

『いざきロード』は1工区が昨年4月に完成。現在2工区の準備が進められています。

いっぽう市議会では、日本共産党以外にも、批判的意見や慎重論が広がり始めています。また市民説明会（2月28日）でも、横断歩道が撤去されること等、安全性を不安視する意見や、「回遊性の向上」という市の説明に懸念を示す意見が相次ぎました。

市長は、「市民要望はない事業でも、街の質と価値を高める事業」と強気です。しかし、その目的（歩行者と車両の交錯＝一方通行化）を画一的に押しつけるが故に、横断歩道の撤去など市民が求める安全性や回遊性等に合わなくなっているのです。

通過車両1・7倍

おだぎり市議の質疑で、全事業完成後、駅西口ロータリーへの進入路は3本から1本のみ。車両の迂回経路がなくなるうえ、千葉銀行前（西口ロータリー方面行き）の通過車両が、休日1・7倍、平日1・5倍にも…。

また市内の横断歩道の設置要望は、通学路安全点検から5年間で70件（重複あり）にのぼりながら、設置はゼロ件です。市長が口添えする『いざきロード』の横断歩道は設置され、登下校の横断歩道は未設置…「安全・安心」までもおきざりにするのでしょうか。



手押し信号・横断歩道の設置要望している通学路



修正案を提案

『いざきロード』予算は削除を

おだぎりたかし市議は3月11日、市議会予算審査特別委員会で修正案を提出。『いざきロード』2工区経費（約2億8千万円）を削除し、財政調整積立基金（災害等緊急時に取崩せる自由度の高い基金）に積立てるという内容です。

おだぎり市議は提案理由として、①平穏な生活と市民の安全・安心を壊す可能性があること、②市民に役立つ市役所を変貌させると指摘。また修正案への賛成討論では、区画整理事業として国費を多額に投入された経緯から、新設からわずか6年で再整備するという浪費は許されないと発言しました。

後期高齢者医療保険料 大幅値上げストップを

日本共産党

後期高齢者医療保険料が改定されます。３月２日市民経済委員会では、おだぎりたかし委員長の質疑で、保険料改定の実態が明らかとなりました。

制度スタートから18年 ８回目の値上げ

後期高齢者医療制度は、国民を年齢で区切り、高齢者を別枠の医療保険に強制的に囲い込んで、負担増と差別医療を押しつける稀代の悪法です。

２００８年度の制度導入以来、今回で８回目となる保険料値上げに。重大なことは、低所得者ほど負担感がより重くなっていることです。１８年間の保険料比較では、平均保険料は１．４３倍となる一方、国民年金のみで年７９万円の方では３．９４倍、厚生年金の年２０７万円の方では１．８７倍となっています。

相次ぐ物価の高騰で、受け取る年金が目減りする中、高齢者の生活を圧迫する重大要因となっています。

さらに、窓口負担も「原則１割」が改悪され、「３割」「２割」の方も…。また市議会では、おだぎり市議の質疑に、「市としては基金は持っていない。保険料抑制を目的とした県基金残高もＲ７年度末でなくなった」と答弁。団塊の世代の被保険者が増加するもとで、制度継続そのものが難しくなっています。

市議会最終日、唯一、反対討論をおこなった日本共産党。富裕層への適切な保険料服を求めました。これからも、くらしを守り、医療・介護の安心を広げる立場で力を尽くします。

年度	年平均保険料	前年度の差額	被保険者数
2009	7万8161円	―	1万2660人
2010	8万8787円	１万626円増	1万3445人
2012	8万3631円	5156円減	1万5077人
2014	8万4463円	832円増	1万6523人
2016	8万5410円	947円増	1万8788人
2018	8万6765円	1355円増	2万1267人
2020	9万4260円	7495円増	2万3322人
2022	9万4281円	21円増	2万5138人
2024	9万7480円	3208円増	2万7556人
2026	**11万1854円**	**1万4365円増**	**3万636人**



日本共産党 流山市議会議員

おだぎりたかし

流山民報号外（26.3.28）　小田桐０９０－８５６７－８８５８